

別記第1号様式(第7関係)

## 会 議 録

附属機関又は 会議体の名称		令和4年度 第1回教育に関する事務の点検・評価委員会
事務局(担当課)		庶務課
開催日時		令和4年11月22日(金) 午後5時40分～午後7時30分
開催場所		豊島区役所 教育委員会室(本庁舎8階)
議 題		(1) 教育に関する事務の点検・評価の実施について (2) 令和3年度評価実施事業 取り組み状況報告 (3) 評価対象事業のヒアリング及び質疑応答 「オリンピック・パラリンピックの機会を活かした教育の推進」
公開の 可否	会 議	<input checked="" type="checkbox"/> 公開 <input type="checkbox"/> 非公開 <input type="checkbox"/> 一部非公開      傍聴人数 0 人
		非公開・一部非公開の場合は、その理由
	会議録	<input checked="" type="checkbox"/> 公開 <input type="checkbox"/> 非公開 <input type="checkbox"/> 一部非公開
		非公開・一部非公開の場合は、その理由
出席者	委員	美谷島 正義 福本 みちよ 大野 春美(敬称略)
	その他	教育長、教育部長、教育施策推進担当課長、学務課長、放課後対策課長、学校施設課長、指導課長、教育センター所長
	事務局	庶務課長

## 審 議 経 過

発 言 者	発 言 要 旨
美谷島委員長	<p>【開会】 委員自己紹介 事務局紹介 教育長挨拶 委員長選出 委員長職務代理者の指名</p> <p>それでは、お手元に次第が用意されておりますので、それに基づいて議事を進行させていただきます。 まず議事（１）「教育に関する事務の点検・評価の実施について」をご説明いただきたいと思います。よろしく願い致します。</p>
石崎庶務課教育計画グループ 係長	<p>【議事（１）「教育に関する事務の点検・評価の実施について」の説明】</p>
美谷島委員長	<p>ただ今、実施方法等について事務局より説明がございましたが、委員の方々はご質問等ありますか。</p> <p>私の方から実施方法について簡単に説明させていただきますと、審議の中で議題ごとに「事業分析シート」が資料として提出されてきます。それに基づいて各所管より説明があり、それに対して我々委員が評価していく流れとなります。</p> <p>本来ならば、事務事業について改善点を明らかにするのがこの評価の目的となります。そうしたことを踏まえると、この A/B/C の 3 件法だと、中心化傾向に進んでしまった場合に改善したほうが良いのか、悪いか分かりにくかったです。私自身が去年委員を務めてみて、A・B、何か問題点があって C という評価でした。C という評価をつけると、A/B/C/D とあるとすると、C というのは否定的評価の C・D です。A・B というのは肯定的評価と考えると分かりやすいです。最終的には、各事務事業について「A/B/C」で評価した報告書を作成いたします。昨年度の指標の解釈でいくと、A は「うまく実施されている」、B だと「適正にやっているが、この部分をもう少しうまくやれないか、この部分について検討していただけないか」といった意味合いに近いです。C は「お金の使い道として適正ではない」といったイメージです。そういった理解が良いと考えています。</p> <p>最終的な評価は、3回の審議会で評価をつけ、4回目は委員会として報告書を作成・提出するのですが、日程的に少し厳しいです。委員の基準がそれぞれ異なることにより、評価が異なると、評価のバランスがとれなくなる可能性もあるため、毎回の審議会終了後、委員で調整を行うことで円滑に評価が進むのではないかと考えておりますが、このような進め方でよろしいでしょうか。</p>
福本委員・大野委員	<p>「はい」</p>
美谷島委員長	<p>ありがとうございます。それではそのような形で進めさせていただきます。</p>

	<p>続きまして、昨年度の報告書に基づいて、「(2) 令和3年度評価実施事業 取り組み状況報告」についてご説明お願いいたします。</p>
<p>高橋庶務課長 坂本教育施策推進担当課長 宇野学校施設課長</p>	<p>【資料2「令和3年度評価実施事業 取り組み状況報告」の説明】</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. ICT環境の整備</li> <li>2. 学校の働き方改革の推進</li> <li>3. コミュニティ・スクールの導入・教育活動の充実</li> <li>4. 区立幼稚園の認定こども園化の検討</li> <li>5. 学校施設環境改善整備補助金事業</li> </ol>
<p>美谷島委員長</p>	<p>ありがとうございました。それでは、昨年度の評価・点検事業のその後の状況について説明がございましたが、委員の方々はご意見・ご質問等がございますか。 はい、大野委員</p>
<p>大野委員</p>	<p>1のICT環境の整備についてですが、コロナ禍で、GIGAスクール構想の前倒しもあり、ますます子どもが電子映像メディアに触れる機会が非常に増えていると思います。視力の低下など、ゲーム・テレビに触れる機会が増えることによる健康面への影響について心配をしております。また、子供の脳への影響も心配です。視力低下や脳への影響についてはこの審議会の中でお話にはなりましたか。</p>
<p>美谷島委員長</p>	<p>昨年度は、コロナ禍での取り組みということもあり、ICTの活用の部分についてが議題の中心でした。大野委員が仰っていたモラルの部分についても検討課題として書かれていますが、視力の問題等までは書かれておりません。昨年度はコロナ禍の中でまだ導入されていないものをどう導入していったか、各学校、全国でオンライン授業の脆弱化が見えたものですから。それに対して豊島区は、ツールとしてどうやって進んで活用していくかという点が中心でした。 大野委員が仰っていた視力の問題だったり、ツールとして活用していくという中でモラルについては課題として残しているのので、所管課が引き続き取り組んでいただけたらと思います。 よろしいですか、庶務課長</p>
<p>高橋庶務課長</p>	<p>はい</p>
<p>美谷島委員長</p>	<p>よろしく申し上げます。 はい、指導課長</p>
<p>丸山指導課長</p>	<p>ICTをツールとして活用していったところでございますが、健康面という点では、まず強制的に使用できる時間帯を小学校・中学校別に設定しており、時間帯によって、児童・生徒がシステムにログインできないようにしております。 使用できる時間帯というのが、小学生は朝7時から夜の9時まで、中学生は朝7時から夜の10時までということで夜中に使用できないようになっております。後は、家庭でルール等を決めていただく必要があるかと思っております。 授業中にしましては、文部科学省からも出ていますように、20分に1回、タブレットから目を離すといったルールを決めたり、30センチ画面から目を離して使用するというルールを決めたりしております。</p>

	<p>インターナショナルセーフスクール認証校の学校だと、30センチがどのぐらいの長さが視覚的に分かるような工夫をして、低学年の児童にも対応しています。今後もタブレットを使うということと、健康を振り返るということをバランス良く行っていきたいと考えております。</p>
大野委員	<p>分かりました。</p>
美谷島委員長	<p>教育長、どうぞ。</p>
金子教育長	<p>GIGA スクール構想が始まる前からの傾向であるのですが、私としてはタブレットより、ゲーム依存などの方を心配しております。私自身学校へ行っているが、授業中は教員たちが授業でしゃべっているため、子供たちがずっとタブレットを見ているということはないと思っています。むしろ、プライベートな部分で、ゲームなどに依存してしまうのかと考えております。学校ごとに取り組みの大小はありますが、ゲーム依存やテレビ依存などの部分について自分たちがどうやってルールを決めていくか、時間を決めていくかなど、子供がなるべく自分たちで考えてスマートフォン時間を決めている学校もあります。我々としては、それを支援していきたいし、健康面は悪い方に影響しては困るのでチェックしていきます。</p>
美谷島委員長	<p>教育長、ありがとうございます。 福本委員、何かございますか。</p>
福本委員	<p>気づいた点だけ申し上げます。 評価方法や評価の視点のところで、区民や教員等のニーズがあるかということが説明であったのですが、一方でニーズ調査をどう実施したかという資料がないため、どういう風にニーズを調査して、それがどうなのかという、要はエビデンスの部分が分からないと思いました。 二点目、ICT 環境整備についてですが、対教員で考えるか、対子供で考えるかで論点が変わってくるだろうと考えました。ICT は、昨年度に関してはコロナ禍ということもあり、使うことに力点が置かれたのは当然のことだと思いますが、この先しばらくはwith コロナだと思いますので、コロナのためではなく、授業改善につながらなければ ICT の活用の意味はないと思います。ツールとして活用のその先が見えてこないというふうに思いました。 また、学校の働き方改革の推進ですが、働き方改革に関して勤務時間という論点でスタートしたということは事実ですが、単に時間が短くなれば良いのか、先日実施したアンケート調査で特に教員たちの満足度もかなり高いということなので、働き方改革というところで止めるのではなく、その先はどうなのか、私はマネジメント改革だと思っておりますので、そこにどう行き着くのかという点が気になりました。 最後にコミュニティ・スクールの話ですが、豊島区は全校必須にはなっていませんよね？</p>
坂本教育施策推進担当課長	<p>将来的には全校化を目指していますが、今は必須とはなっておりません。</p>
福本委員	<p>必須でないのであれば、今がチャンスだと思いました。 必須となってしまうと形骸化という危険があるかと思えます。やはり、</p>

	<p>SDGsや防災というのは、一体でないとできない事ですので、ぜひ義務化となる前に、こういうことだからコミュニティ・スクールが必要なんだ、というふうに豊島区になっていただきたいと思います。</p>
<p>美谷島委員長</p>	<p>福本委員ありがとうございます。</p> <p>私の方からは区立幼稚園の認定こども園化についてお伺いしたいです。ハード面で効率的に使うということで、昨年度も課題として挙げましたが、ソフト面の指導の部分については引き続き検討してもらいたいと思いました。また、保幼小の連絡会が行われたとありますが、「高評価だった」というのは出席者からなのか、それとも教育委員会からでしょうか。</p>
<p>坂本教育施策推進担当課長</p>	<p>保幼小連絡会に出席されている私立の幼稚園と保育園の園長先生が、小学校とどう繋がっていかうかと考えており、他の園との交流、特に私立保育園は増えておりますので、保幼小連絡会で顔を突き合わせて話すことができる、こういう場があるという点が、まだ一回しか全員で集まれておりませんが、大変喜ばれたというところでございます。</p>
<p>美谷島委員長</p>	<p>ありがとうございます。</p> <p>それともう一点、福本委員から大事なヒントがありましたように、コミュニティ・スクールの部分ですが、地域と学校との溝を、SDGs、防災などで埋めることができます。特に防災は地域としては若い力がほしいはずですが、具体像が地域も学校もまだみえていない状況だと思います。一斉に必須としてしまうと、形だけ作って何にも中身がないということになってしまうため、ぜひ学校と地域が悩んで悩んで意見を出し合って、作りあげていくような形としてもらいたいです。</p> <p>はい、教育施策推進担当課長</p>
<p>坂本教育施策推進担当課長</p>	<p>私も全国のコミュニティ・スクールの状況を調べる中で、必ずしも全ての学校がうまくいっているわけではないところから、豊島区独自のコミュニティ・スクールのガイドラインを作って、丁寧に進めております。</p> <p>ガイドラインでは小学校と中学校で考え方を变えており、小学校は地域に支援をしてもらいたい、中学校はどちらかというと地域に貢献していくといった、発達段階に応じて考え方は変わっていくものとしております。</p> <p>本区においては、千川中学校がD級ポンプの操法に取り組んでおりますが、D級ポンプの操法を千川中学校で習った人が大学生となり、消防団に入っているというようなことで先日のSDGsフェスティバルで発表させていただきました。まさに我々が目指すコミュニティ・スクールの形だと思います。豊島区では、将来の地域の担い手を育て、公立の学校として地域に還していくんだと、そういった形になるように豊島区のコミュニティ・スクールを進めていきたいと思っています。すべての学校で一気に導入していくのは難しいと思っています。</p>
<p>美谷島委員長</p>	<p>ありがとうございました。よろしいでしょうか。</p> <p>ここまで昨年度の評価・課題等につきまして振り返りをさせていただきました。ここで10分間の休憩といたします。</p> <p>(休憩時間)</p>

美谷島委員長	<p>それでは再開いたします。          評価対象事業「オリンピック・パラリンピックの機会を活かした教育の推進」について指導課長、ご説明お願いいたします。</p>
丸山指導課長	<p>【資料3 教育に関する事務の点検 事業分析シート「オリンピック・パラリンピックの機会を活かした教育の推進」の説明】</p>
美谷島委員長	<p>ありがとうございました。          まず、私から質問させていただきたいのですが、予算の部分で豊島区の予算として予算措置されておりませんが、通常の学校の配付予算の中で教育課程に位置付けて取り組んでいるということでしょうか。</p>
丸山指導課長	<p>今年度については、SDGs として取り組んできたので、「SDGs 達成の担い手育成事業」の予算を活用したというのが実情です。</p>
美谷島委員長	<p>はい、教育施策推進担当課長</p>
坂本教育施策推進担当課長	<p>SDGs 達成の担い手育成事業を、豊島区が SDGs 未来都市に選ばれたということもあり、昨年度の途中から1億円という金額を補正予算で組み、各校300万円の経費を措置しました。今年度はその残額を繰越予算として各校は活用しております。          オリンピック・パラリンピックに関連したものではありませんが、今後、各校の取組を継続的な形で実施していくために車イスを購入したりしています。          池袋本町小学校の藍染プロジェクトなどでは今後持続可能な形で使えるものをご購入したりですとか、様々な活動を行っています。          どうしても予算というものは措置されるか否かで変わってくる部分もございますが、SDGs ということに持続可能に、継続的に使えるように、地域の方々と一緒に取り組むことで継続性を持たせようといった活動をしております。          オリンピック・パラリンピックで行ったことを全てSDGsの事業で実施しているということではありませんが、SDGs 達成の担い手育成事業の予算の中で、オリンピック・パラリンピックの機会を活かした教育の中で取り組んだ内容を、地域の特色として取り組んでいる学校もあるという状況です。</p>
美谷島委員長	<p>事業分析シート上には予算措置がないように見受けられるが、柔軟に活用できる予算があるという意味合いでよろしいですか。</p>
坂本教育施策推進担当課長	<p>はい</p>
美谷島委員長	<p>ありがとうございました。          委員の方々、ご質問等ございますか。          はい、大野委員</p>
大野委員	<p>オリンピック・パラリンピックの教育は28年度にスタートし、富士見台小学校では「ゆめ未来プロジェクト」ということで学校のほうに予算をつけ、出前講座という形で、7人制ラグビーのオリンピック選手や柔道の選手が学校に来て、子供たちに話をしてもらおうといったことをやってもらいましたが、今はその時から発展して、オリンピック・パラリン</p>

丸山指導課長	<p>ピック教育として予算を措置するというよりは、SDGs につなげるといったように変化したという認識でよろしいですか。</p> <p>大野委員が仰るように、28 年度に事業がスタートとしたときには色々なチャンスがあったり、予算の措置も現在とは異なりましたので、イベント的に実施することがございましたが、今は単発のイベント的に行うということから日常的に行うといったことに焦点を当てているような状況です。学校の教育課程、年間指導計画に基づいて、予算などに左右されない継続的な指導になっております。</p>
美谷島委員長	<p>大野委員が仰った部分を踏まえると、昨年度のことと比較すると、何をするかという部分が見えにくいです。例えば ICT で言えば環境整備、認定子ども園であればその考え方について評価するというのは問題ありませんが、オリンピック・パラリンピック教育については東京都教育委員会が主導した事業です。教育課程に位置付けているので、レガシーとして残して豊島区として取り組んでいるというふうに進めていくのだろうと思いますが、それをこういうふうに取り組んでいるというところが見えないと、委員としては評価がしにくい部分があります。それについてはどのようにお考えですか。</p>
丸山指導課長	<p>豊島区としては、東京都のオリンピック・パラリンピック教育の内容を元に、カリキュラムマネジメント意識の変革のチャンスだったと思います。そして今、オリンピック・パラリンピック教育の内容を SDGs 達成の担い手育成事業により、各校の特色ある教育に位置づけることで学校が主体となって、取り組んできた内容をこれからも続けていく教育を行っていると思います。学校が実施している取組等の一覧をお出しすると分かりやすいでしょうか。</p>
美谷島委員長	<p>育成すべき5つの資質を東京都教育委員会が示していると思いますが、豊島区としてはこの育成すべき資質をオリンピック・パラリンピック教育の機会だけでなく、今後も続けていきたいということですね。どういところでこういう視点をもって続けていきたいと、いわゆる施策の部分かと思いますが、それを例えば教育課程届の受理の時に、新たなフォーマットの中でこれを付属資料として提出してくださいと言って位置付けていると、そして、その取組について SDGs 達成の担い手育成事業の予算も使っているということであれば、それは良いことではないかと、その取組は推進していくべきだといったふうに評価できるんですけど、何を評価していいのか見えてきません。</p>
福本委員	<p>よろしいですか。</p>
美谷島委員長	<p>福本委員、どうぞ</p>
福本委員	<p>令和4年度と3年度のオリンピック・パラリンピック教育の在り方は違うかと思えます。</p> <p>4年度は「オリンピック・パラリンピックの機会を活かした教育の推進」ではなく、「オリンピック・パラリンピック教育の発展的解消」にしたほうが良かったのではないかと思います。現場教員の話の聞いていると、まだオリンピック・パラリンピック教育を続けたいといけないのかという意識のほうが強い印象です。指導課長が仰っていたカリキュラムマネジメントの発想というのは、発展的解消をしつつ、どうやって持</p>

	<p>続的に取り組んでいくのかということですよ、オリンピック・パラリンピック教育を推進するのではないと思います。しかもオリンピック・パラリンピックは私たちが思った形で実践されなかったの、推進すること自体に無理があったのではないかと私は思います。</p> <p>しかし、教育委員会が色んな施策を出す中で、学校はそれを一つ一つ短冊のように実施するのではなくて、どうやって構造化してやっていこうかと考えるため、そうするとオリンピック・パラリンピック教育の推進というのは、これを SDGs の中で取り組むと。そうするとオリンピック・パラリンピック教育という言葉もいらない、しかし、レガシーの部分は残っていくという形にすると、先ほど美谷島委員長が仰っていたという形かということとみえてくるのではないかと思います。タイトルが「オリパラ教育の推進」となっているので、我々が違和感を感じているのだと思います。</p> <p>もう一点、小・中学校の活動にあまり違いがないように感じたのが気になりました。小学校でやることと中学校でやることはゴールが違うはずだと思います。私、ニュージーランドの教育を行っているのですが、ニュージーランドはオリンピックの主催国ではありませんけども、大会を通じて色んな姿がみえたことによって、気候変動をどう捉えていくのかという熱がさらに高まっております。「SDGs 推進都市」を掲げているのであれば、中学校は小学校と同じような活動をただ行うよりは指導課長が仰っていたカリキュラムマネジメントの観点でどう取り組んでいくかということと教育委員会としてどう支援していけるかという話の展開だと分かりやすかったのではないかと思います。</p> <p>そのため、委員長が仰っているどこをどう評価すれば良いのかということが見えにくいのではないかと思います。</p>
美谷島委員長	<p>福本委員、ありがとうございました。</p> <p>最終的には事業分析シートを基に評価になるかと思いますが、今福本委員が仰ったかと思いますが、事業名は決定でしょうか。</p> <p>4年度の事業分析シートですが、まだ今年度は終わっていない状況でもあります。</p>
福本委員	<p>すでに進んだ事であるため、変更するのはおかしいと思います。</p> <p>おそらく、カリキュラムマネジメントの中で、学校の教育活動として取り組んできたことは評価できると思いますが、施策名が適切だったかと言われると、表題と取組内容と成果の一貫性を考えると違和感があるというふうに思います。</p>
坂本教育施策推進担当課長	<p>一点よろしいでしょうか。教育に関する事務の点検・評価ですが、評価対象は前年度の事務の執行状況となっております。今、指導課長の説明で令和4年度の事務の話がありましたが、基本的には令和3年度の事務について評価するものと思います。本委員会の開催時期が令和4年度の12月なので、令和4年度の話と織り交ぜての説明となっておりますが、基本的には令和3年度の事務の執行について評価するものと認識しています。</p>
美谷島委員長	<p>そうすると、令和3年度に行った「オリンピックパラリンピック教育の機会を活かした教育の推進」、いわゆる2020ではなく、オリンピック・パラリンピックが実際に行われた2021に対する評価で良いということでしょうか。それを豊島区としてはこういう視点で推進したというのを評価するという点でよろしいでしょうか。</p>



坂本教育施策推進担当課長	私はそう認識しております。
丸山指導課長	<p>オリンピック・パラリンピックの開催が1年遅れたことで、実際のオリンピック・パラリンピックとレガシーの実施時期が重なっているため、発展的解消とまでは言いませんが、オリンピック・パラリンピック教育からレガシーに続けて、レガシーをそのまま単独で行うのではなく、学校教育でどう包括的に行っていくのかというのが昨年度かと考えております。今年度からレガシーというわけではなく、昨年度からすでに言葉は出ていて、どうレガシーとして残していくかという点が昨年度の大きな課題でした。</p>
美谷島委員長	<p>そうすると、資料の「豊島区立学校における学校 2020 レガシー」部分について、オリンピック・パラリンピック教育の中で教育課程に位置付けたということですから、全部の学校をいわゆる一覧表にして、そして特に東京都教育委員会の共生社会の実現に向けて、1・2・5 を重視すると書いておりますので、それについて教育課程に位置付けてこういう風に学校は取り組んだというふうに説明していただけると有難いのですが。</p> <p>それでよろしいでしょうか。</p>
丸山指導課長	<p>資料の追加として、昨年度オリンピック・パラリンピック教育からレガシーに展開し、今年度、教育課程に位置付けて、どの資質を強化するかというのが一覧になっているので、それを提出するというところでよろしいでしょうか。</p>
美谷島委員長	<p>今年度ではなく昨年度の事務の執行状況について評価することになっております。オリンピック・パラリンピック教育について5つの資質能力が示されており、豊島区として1・2・5を重視して取り組んだという例がここにあると思いますので、これが全30校が取り組んだという一つの取り組み例になるのではないかと思います。これが教育課程に位置付けるということですよ。</p>
福本委員	<p>令和4年度に向けて、持続・スタートができるように下準備ができましたというのが令和3年度までのところだと思います。令和4年度の資料を見てしまうと、話が食い違ってしまうため、令和4年度からスムーズに移行できるように令和3年度は土台づくりというか、準備までができましたという部分を説明してもらえると良いと思います。</p> <p>そうすると、令和4年度の実績として、発展的解消というところまで繋がるため、そこまでが我々の評価対象となると思います。</p>
美谷島委員長	<p>福本委員、ありがとうございます。</p> <p>そういう形でよろしいでしょうか。</p> <p>はい、教育部長</p>
澤田教育部長	<p>ありがとうございます。</p> <p>資料のつくりなど、改善すべき点がございますので、一度整理させていただければと思います。また、次回で説明させていただきます。</p>
美谷島委員長	<p>今、お話があった内容・方向の資料を付け加えていただいて、次回以</p>

<p>福本委員</p> <p>大野委員</p> <p>美谷島委員長</p>	<p>降にご説明いただければと思います。 委員の皆様、他にご意見、ご質問等はございますでしょうか。</p> <p>特にございません。</p> <p>私もございません。</p> <p>それでは、以上をもちまして本日の議題については終了いたします。 ありがとうございました。</p> <p>それでは本日の議事は終了といたします。</p> <p>—閉会—</p>
---------------------------------------	--

<p>提出された資料等</p>	<p>【資料1】教育に関する事務の点検・評価の実施について</p> <p>【資料2】令和3年度評価実施事業 取り組み状況報告</p> <p>【資料3】令和4年度 教育に関する事務の点検 事業分析シート「オリンピック・パラリンピック教育の推進」</p> <p>【参考資料1】教育に関する事務の点検・評価委員会設置要綱</p> <p>【参考資料2】教育に関する事務の点検・評価実施要綱</p>
-----------------	--